



健康社会学研究会

ニューズレター No.29

発行：健康社会学研究会 〒106-8580 港区南麻布 5-6-8
母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部内
電話：03-3473-8332(直通) FAX:03-3473-8408 E-mail: healpro@aiku.or.jp
ニューズレターNo. 29/2002年11月 編集担当：金子純子

健康社会学研究会 12 月例会研究会開催のご案内

1. 日 時：2002 年 12 月 21 日（土）15：00～17：00（※注意）
 2. 場 所：日本子ども家庭総合研究所 3 階第一会議室 Tel. 03-3473-8332（直通）
 3. テーマ：健康社会学における実証研究の方法―「未定」
 4. 報告者：金子 元彦氏（順天堂医療短期大学非常勤講師―交渉中）
 5. 内 容：本報告は、運動の習慣化を実現するための指導法の手がかりを得るために、地域の運動指導員へのインタビューを実施した調査研究の報告、及び方法論について、参加者とディスカッションを行ないます。
 - ・ 月例会終了後、忘年会を行ないますので、ぜひご参加ください。
 - ・ なお報告者変更の場合、ホームページ（<http://www.aiku.or.jp/index.php>）にてお知らせします。
- ※注意 前号のニューズレターNo.28にて月例会開催予定日を12月14日（土）とお知らせしていましたが、12月21日に日程が変更になりました。

第 3 1 回健康社会学セミナー報告

日時：2002 年 6 月 22 日（土）13 時～17 時
場所：日本子ども家庭総合研究所 3 階第 1 会議室

< 基調講演 >

保健活動の評価におけるメンターの視点～アカウンタビリティの次にくるもの～

順天堂大学医学部衛生学教室 大賀英史

全国的に自治体内で注目を集めている「行政評価」をテーマとし、①行政評価の基本概念、②評価のデザインを中心に、事業評価を超えた行政全体の改革という大きな視点から解説した。

行政評価は、①いつまでに何をやるかの具体的な目標をたててやると、無駄な時間、労力、お金が減る、②自分の仕事の記録をつけ、時々うまくやれているかチェックをする、③住民に対して偉そうに構えず、同じ人間として基本的マナーのうえで対応する、④サービスの内容を考案する時は、お客さんである市民の声をよく聞く、という考えが大切となる。

行政評価を実施することにより、事業効果が数量化されスタッフとしての職務満足が高まったり、効果的な予算配分が可能となったり、新しい住民参加が生まれる等、多くの効果が期待される。

また、健康日本 21 について、行政評価の視点から①厚生労働省が主体で地方の自主性が不足している、②目標値の設定の「方法」が不明、③内容的に医療サイドの発想で専門家主体等と説明し、健康日本 21 は行政評価の一部として飲み込まれてしまうかもしれないと指摘した。

この行政評価は、健康計画の策定から実施、評価にわたる一連のサイクルの中で、保健分野ではこれまで語られることが少なかったマネージメント的視点を十分に含めた新鮮味のある内容であった。今後、行政評価の考え方を随所に取り入れることによって、新たな取り組みを起こすきっかけになると思う

<事例発表>

①「白井市の健康文化都市評価」・・・白井市役所企画調整課 松岡正純

白井市で健康文化都市構想の一環として進めている『健康文化都市評価』を例示し、評価の全体像から評価指標、評価サイクルを中心に概説した。

②「保健分野における政策評価の試み～学びから実践へ」・・・八千代市役所健康づくり課 若林栄子

独自に自主研究グループを結成し、保健分野における政策評価をテーマに、八千代健康づくり指針と第3次総合計画の政策体系の階層化を試み、比較検討を行った経過と学びについて紹介があった。

③「健康日本21における計画と評価の課題」・・・埼玉県川口保健所 松岡綾子

健康日本21をテーマに、埼玉県の「すこやか彩の国21プラン」の位置づけ、計画の柱、計画推進に向けた課題について概説した。

<ディスカッション>

行政が健康をまちづくりレベルで取り組んでいくには、計画の位置づけ、医師会との協力連携、議会との関係、市長の継続性等、うまく乗り越えていかなければならない問題が数多いという意見が出された。

また、これからは住民参加によりまちづくりが大切であり、住民参加を進める推進要因を数多く集めていく必要性が指摘された。

評価の視点から、行政職員の大半は仕事の意味付けをなくしており、一刻も早くそこから脱しなければいけないとされた。そして、保健分野は専門職（技術職）が多数を占めているが、事務職に十分に業務の必要性等を説明できる能力形成を図っていく必要性も指摘された。

(文責：松岡)

健康社会学研究会 9 月月例研究会報告

日時：2002年9月14日（土） 場所：日本子ども家庭総合研究所3階第1会議室

テーマ：健康社会学における実証研究の方法～白井市の健康文化都市評価調査から～

報告者：松岡正純（白井市企画調整課）、コメンテータ：杉田秀二郎（文化女子大学）

1 白井市の健康文化都市構想の全体像

ヘルスプロモーションの理念をもとに、平成9年度から健康文化都市構想を推進している。

本構想は、罹患率の減少ではなく生活の質の向上を目指し、分野間の協力・連携のもとまち全体を健康をつくる場と考え「健康的なライフスタイルづくり」と「健康を支援する環境づくり」を2本柱としている。

2 健康文化都市構想の推進サイクル

計画→実施→評価の循環サイクルを確立させることにより、継続的、効果的に構想推進を図る。本事例発表では、評価の中に位置づけられたアンケート調査を紹介した。

3 健康文化都市評価におけるアンケート調査の位置づけ

健康文化都市評価は、客観的評価と主観的評価からなり、後者の中にアンケート調査は位置付けされる。

4 アンケート調査実施までのプロセス

(1) 健康文化都市評価委員会の設置（平成11年9月）

住民の視点から健康文化都市をどのように評価していくかを検討。

(2) 健康文化都市評価システムに関する提言書（平成12年3月）

健康文化都市の評価の考え方と枠組みを取りまとめた。

アンケート調査項目を検討→委員案と事務局案をあわせた調査項目。

評価の基本的考え方・・・生活感覚、わかりやすさ、主観的な評価、情報公開

(3) 調査票の作成・・・見やすいレイアウト、字体の使い分け

(4) 調査対象者の抽出・・・性別、年齢、地域のバランスを取った層化抽出

(5) 発送準備作業・・・調査票印刷、封筒準備、宛名シール、封入など

5 アンケート調査の実施

- (1) 調査票の配布・回収…10日間前後で郵送配布、回収

6 アンケート調査の回答入力

- (1) 入力準備…記入漏れ確認、ナンバーリング、コーディング、入力シート作成
- (2) 入力作業…数値入力、自由回答入力、入力ミスチェック

7 アンケート調査の集計・分析

- (1) 集計作業…単純集計、クロス集計
- (2) 分析・整理…結果の読み込み、表・グラフ作成、会議資料作成

8 健康文化都市評価に関するアンケート調査の概要

- (1) 健康文化都市の認知度
 - ・ 「健康文化都市の名称を聞いたことがある人」が47%
 - ・ 「健康をテーマにまちづくりを進めていることを知っている人」が37%
- (2) 健康をテーマとしたまちづくりへの関心
 - ・ 約7割近くが関心を持っている
- (3) お気に入りの場所・好きな風景
 - ・ それぞれ「1つもない」が4割から5割
- (4)大切にしている人・大切にしてくれる人
 - ・ 「近所、地域の人」がそれぞれ約3割、約2割
- (5) 心身の疲労感・イライラ感
 - ・ 4割以上の人々が疲労感やイライラ感をうたっている
- (6) 健康の考え方
 - ・ 「心身ともに健やかなこと」が一番多い
- (7) 健康状態
 - ・ 歯の病気、筋・骨格系の病気、循環器系の病気の順に多い
- (8) 健康感
- (9) 喫煙・飲酒・肥満度
- (10) 健康に関する行動 (30項目)
 - ・ ボランティア活動、地域活動の実行度が低い
- (11) まちへの感じ方 (21項目)
 - ・ 自然環境を評価する声が多い
 - ・ 「どちらともいえない」の割合が高い

<発表者からの問題提起>

①アンケート調査を住民参加の促進ツールとして活用できないか。

②行政の政策提案ツールとして活用できないか

→そのためには、アンケート調査の企画、実施、集計、分析はどうあるべきか。また、どんな場面で、どのような活用方策が考えられるか。

<フロアーからの意見>

- ・ アンケート以外の住民参加の手法もあり、いろんな手法を駆使していく必要がある。
- ・ アンケート結果を保健師が活用し、個人へのアプローチを行っていきけるような取り組みが大切である。
- ・ アンケート結果の分析を通じて住民参加を進める方法もある。
- ・ 年代によって結果は異なっているので、年代別アプローチが考えられるとよい。

<お詫びと訂正>

ニューズレターNo. 28 5月月例会報告 4ページ(表3の解説文)右5行目、因子分子は、正しくは因子分析でした。
お詫びして、訂正いたします。

(×因子分子 → ○因子分析)

運営委員紹介 (50音順)

荒井 今日子 アライ キョウコ

これまで、研究会に対しては、「参加してみま〜す。」という受け身のスタンスだったのですが、松岡代表の「研究会には、様々な研究者や実践者がいるし、その人たちと、領域や立場を超えてディスカッションしたり、アイデアを出し合えるのがこの会の最大の魅力なんだよ！」という熱い言葉にホロリ。一転、運営委員をさせていただくこととなりました。できるだけ多くの皆様といろいろな交流させていただきたいと、今からワクワクしています。どうぞよろしく願いいたします。

小山 修 オヤマ オサム

島内元代表の退会に伴う代表の残任期間を終え、新代表に引継ぐことができました。

研究会の危機ともいべき時期を、なんとか乗り越えることができましたことは、旧知の会員の方々からの励ましと、何よりも若手運営委員の研究会に対する「熱い思い」がそうさせたのだと考えております。

運営委員は、定例研究会、ニューズレター、自由集会、研究会誌の編集など、行事や実務をこなすたびに着実に力をつけてきています。これまでに以上にご支援をいただけますとともに、本研究会の更なる発展のため、会員の皆様のご協力を切にお願いいたします。

斉藤 進 サイトウ ススム



～会員の声 募集！！～

研究会会員の皆さん！ニューズレターに参加しませんか？最近気になること、凝っている・ハマっていること、その他何でも結構！書式は自由です。（イラストでもOK）ぜひ原稿をお送りください。

FAX・mail・郵送いずれも可
（写真などもお寄せください。
但し、返却することは出来ませんので、ご注意ください）

運営委員活動報告 —運営委員会議事録—

運営委員は、原則として毎月第2もしくは第3土曜日—日本子ども家庭総合研究所3階会議室において運営会議を行っています。平成14年度の運営委員会開催日時、その他の活動内容について報告します。

過去最近2回の会議に関しては、報告、検討内容の項目を掲載しました。

（なお、第1回から第4回運営委員会内容に関してお知りになりたい方は、事務局まで問い合わせください。）

<平成14年度>

H14. 4.20 (土) 第1回運営委員会 15:00-17:15

H14. 5.18 (土) 第2回運営委員会 12:30-15:00
ニューズレターNo.26 発送

H14. 6.12 (水) ニューズレターNo.27 発送

H14. 6.22 (土) 第3回運営委員会 10:30-12:30

H14. 7.20 (土) 第4回運営委員会 15:00-17:00

H14. 8.24 (土) 第5回運営委員会 9:00-10:30

H14. 9.14 (土) 第6回運営委員会 13:00-14:30

ニューズレターNo.28 発送

出席者: 小山委員、金子委員、杉田委員、松岡委員、森川委員

- (1) 健康社会学キーワードについて (報告: 森川委員)
- (2) 会員への研究業績等に関するアンケート (報告: 森川委員)
- (3) 第61回日本公衆衛生学会 (埼玉) 自由集会について (報告、提案: 松岡委員)
- (4) 9月月例会について (報告: 松岡委員)
- (5) 研究誌について (報告: 杉田委員)
- (6) ニューズレターNo.28 発行およびNo.29 掲載予定について (報告: 金子委員)

H14.10.19 (土) 第7回運営委員会 13:00-14:30

出席者: 荒井委員、小山委員、金子委員、杉田委員、齊藤委員、松岡委員、森川委員

- (1) 会員への研究業績等に関するアンケートの回収状況及び、健康社会学キーワードの今後の進め方について (報告: 森川委員)
- (2) 第61回日本公衆衛生学会 (埼玉) 自由集会について (報告・検討: 松岡委員)
- (3) 研究誌の進捗状況について (報告: 杉田委員)
- (4) 次期ニューズレターNo.29 の発行について (報告: 金子委員)
- (5) 12月開催月例研究会について (報告: 森川委員)

H14.10.23 (水) 18:00-20:00 第61回日本公衆衛生学会 (埼玉) 自由集会開催

出席者: 荒井委員、小山委員、金子委員、杉田委員、齊藤委員、松岡委員、森川委員

事務局からのお願い

退会処理について

- (1) 退会希望の方は、退会届をはがきまたは FAX 等の文書でご連絡ください。
- (2) 年度途中での退会の場合、その年度の会費は納入してください。
- (3) 以下の方は、2002年10月29日現在、平成12年度、13年度、14年度の会費が未納となっております。今年度内にご納入頂けない場合、「健康社会学研究会会則第9条(会費等)3」に基づき退会扱いとさせていただきますので、ご注意ください。

阿彦忠之、伊藤千佳子、小島早苗、五島徹也、櫻井尚子、田口師永、箱島盈、福田英昭

(敬称省略)

今回のニューズレターNo.29には、研究業績調査書を同封しています。
記入に関しては次ページ記入方法を参照してください。

締切期日(11月末日)までのご返送にご協力いただけますようお願いいたします。

<編集後記>

最近、友人が入院してしまいました。なんでも、原因は近くで起きたバイク同士の接触事故に、歩行者であった彼女が巻き込まれ、気がついた時には救急車の中だったとか…。「おお！それは災難」と、思っていたら、実兄までもが交通事故に！「なんてこった！」幸い大きな怪我も無く、ホッとしたのもつかの間。「ええっ？」友人の住むアパートメントの上階で火災！！NYの寒空にパジャマ姿のまま、裸足で外に飛び出したとか。その夜、我が家の屋外給湯器が故障—。玄関の外が異様にガス臭く、とっても恐ろしい思いをしました。

危機管理という言葉、最近になってよく耳にしますが、思わぬ事故や災害に遭遇してしまう可能性は常にあるのです。しかし、「備えあれば」と思いつつ、何をどう備えてよいものやら、ちゃんと考えなければいけないなあ—と改めて思いました。

裸足で外に飛び出した私の手に、何故か[食器洗い用のスポンジ]なんてことの無いように——、あっ！そこで今笑った貴方、大丈夫ですか？「危機管理」他人事ではありませんよ。

(金子)

健康社会学研究会会員研究業績等に関するアンケートのご協力をお願い

健康社会学研究会は、「**会員参加型運営**」を目指しております。**具体的には**、会員の皆様による、「**1. 月例会、セミナー、自由集会等での発表**」「**2. ニュースレター、研究会誌への投稿**」です。

上記の「1.」及び「2.」を活発にすることにより、多様な職種が集う当研究会の会員交流を盛んにし、研究会の発展はもちろん、会員の皆様それぞれの実践活動への一助となることを願っております。

そこで当研究会会員の皆様方に、研究業績に関するアンケートを実施させていただきます。下記の記入例を参考に、11月末日までに、別紙のアンケート用紙にご回答ください。

①ご氏名 _____ (例) 健康 太郎

②主な所属学会・研究会

主なものを順に3つまでご記入ください。ただし、健康社会学研究会は除く

③研究業績をご記入ください。

1. (著書)、2. (学術論文)、3. (その他)、4. (学会発表)の順にご記入ください。

※記入例

著書の場合

著者名・(発行年) 書名(欧文文献の場合斜体)・出版社、発行場所=都市名。(分担執筆の場合、担当箇所の名称と頁も明記)
論文のキーワード。

雑誌の場合

執筆者・(発行年) 論文名・雑誌名(欧文の場合は斜体)、巻数(号数)、最初の頁-最後の頁。論文のキーワード。

④専門領域(担当業務内容)

専門領域…**大学・研究機関・専門機関等に勤務している方が**、現在の研究・関心テーマもあわせてご記入ください。

例) 健康教育学(健康に関する行動変容過程)、地域保健学(地域の健康づくり活動の活性化)

担当業務内容…**自治体、保健所、企業等に勤務している方が**、現在の主な担当業務とその内容をご記入ください。例)

地域保健業務(健診業務と健康日本21策定業務)

⑤「③研究業績」の掲載(「健康社会学研究」誌)を

希望する・希望しない(どちらかに○印)

ご記入上の注意点

- ・ ここでいう「学術論文」とは、学術誌、学術雑誌、研究紀要等に掲載された論文のことです。
- ・ ここでいう「その他」とは、上記「学術論文」以外の論文、報告書等のことです。
- ・ 基本的には過去2~3年ぐらいを目安にご回答ください。(ただし10年以上前の原稿であっても、アイデンティティがあるものでしたら、どうぞご記入ください)

FAX(03-3473-8408)、又はE-mail(healpro@aiiku.or.jp)にてお送りください。なおE-mailの場合、書式は自由です。質問内容に沿って、ご回答ください。(担当 健康社会学研究会事務局 森川洋)